第12号
2005/5/31

フクタニュース

発行
(株)フクタ
砕石部

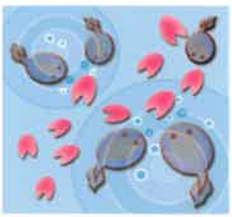
日本砕石協会 創立50周年

日本砕石協会が創立５０周年を迎えました。砕石は、コンクリート構造物や、アスファルト舗装、道路路盤材等として、戦後めざましい需要の伸びを示し、平成３年のピーク時には、全国で４億５９００万トンもの砕石が生産されました。

それまでの砕石業界は量的需要に対応することが主目的で機械化、大型化、自動化に主眼を置いた大量生産時代だったと思います。

現在、全国生産量は２億トン台まで減少し、転機を迎えているのが現実です。これからは、量的供給責任に加えて、品質責任、環境責任、社会的責任を全うしていける業界へ脱皮できるかが問われてくると思います。

今回協会が５０周年を迎え、合わせて岩手県採石工業組合が創立３０周年となった節目にあたり、あらためて業界（当社？）の健全な発展のため社員一同頑張りたいと思います。



当社から2名栄ある 永年勤続表彰

代表で田口　崇さん授与

５月１３日に行われた岩手県採石工業組合の総会において、当事業所の田口　崇、畑山繁の２名が永年勤続表彰を受けました。

二人は、原石採取、プラント運転の各部門で中心的な役割を果たしてこれからも健康に留意し頑張ってください。

全国安全週間・・準備月間

全国安全週間の準備月間が６月１日より始まります。

今年度も岩手県労働基準協会二戸支部の主催で安全標語の募集もあり、昨年当社から２名入選しているので今年も密かに入選を狙うべく頭をひねっています。

６月は、火薬、危険物、電気等の様々な分野の災害防止月間となっています。形式だけでなく一人一人が、身の回りの中で『何が危険なのか』について考えてみる良い機会だと思います。

スローフード考

↑鮮やかで綺麗な和菓子

↑出来上がったそばを切る

水車小屋のしくみ
すべて木製→

先月、江刺市でそば打ちの体験が出来ました。自分で作ったものには信用がおけないので、きっとまずいんじゃないだろうと思っていたら、豈に図らんや「コシ」、「歯ごたえ」、「のどごし」町のそば屋さんより数段美味しいものが出来ました。

しかし・・・先生曰く、『そば粉が違うから』と、いうことで決して腕ではないとのこと。

江刺のある部落では、現役で水車が稼動している所があり、そういうところを見せられると『おいしいもの』の原点は、人の手がかかっていることが大切な要素であることを実感させられました。

また他日、二戸の『なにぁーと』で和菓子の展示会があり行ってきました。筆者が、子供の頃は甘味に飢えていて『甘い』という言葉と『旨い』という言葉がほとんど同じ意味に使われていて、冠婚葬祭の時に饅頭や和菓子が食べられるのが嬉しくて、隣りのおばあさんが死んでも食欲の方が優勢だったことを思い出しました。

和菓子も手作りで食べるのがもったいないと思うほどの出来ばえでした。

浄法寺特区のどぶろく、自分で採ってきた山菜、ゆっくりとした時間の中で自然の恵みをいただくことに優る『うまい』はないものですね。

編集後記

新聞を発行して丸一年になりました。
初めの頃は新聞作りなどしたことが無かったので四苦八苦していました。実は、この新聞の記事は砕石部の工場長である木村が作っております。それを新聞にし、編集後記を私が担当しております。先日、他社の記事も載せては‥と、ご提案をいただきました。読んで頂き感想を頂けるなんてありがたい！もっと頑張ろうという気になります。来月号には、ご依頼の件も載せられたらと思っています。
また、皆さんからの情報もお寄せ頂ければ…
お待ちしております。